

# 環境内分泌学研究室

教員名：長江真樹

## ● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

私たち人間は、**多種類かつ多量の化学物質**を河川や海に放出しています。それら化学物質が、魚をはじめとする**水辺の生き物を死滅させたり、繁殖（産卵）に悪影響を及ぼしたりする**報告が相次いでいます。

環境内分泌学研究室では、**様々な化学物質が水生生物にどのような影響を及ぼすのか**を主に内分泌学や毒性学の視点から研究しています。この研究は、化学物質の生体リスク評価に貢献します。その一例を紹介します。

### ・化学物質の生物への（魚類）影響評価

九州を含む日本全国の河川の河口域や内湾で特定の魚種（マハゼ）を採集し、化学物質の生物影響を調べています。



マハゼ (*Acanthogobius flavimanus*)

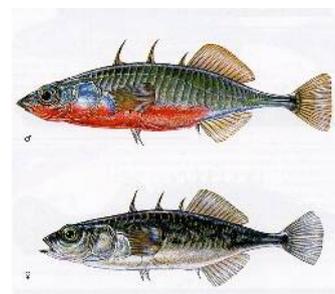


釣りによるマハゼ採集



マハゼの採血

写真（上）のように、フィールド調査に出かけ、現場で魚類の血液や臓器を採集し、冷蔵・冷凍保存して研究室に持ち帰り、様々なタンパク質や遺伝子の濃度測定を行い、汚染の影響を生物学的に調べています。また、写真（右）のような小型実験魚（メダカ・イトヨ）を用いた室内実験により、化学物質の毒性評価を行っています。



## ● 先輩はどんなところに就職しているの？

環境調査分析会社（多数）、製薬会社営業(MR)、製造業研究部門などの実績があります。